

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）
2026年 第29週（7月13日～7月19日）

今週のコメント

～ヘルパンギーナ～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「ヘルパンギーナ 増加」

第29週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は3,267例であり、前週比0.6%減であった。定点あたり報告数の第1位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ8.41、3.86、2.96、1.29、0.54である。

手足口病の報告数は前週比2%増の1,522例で、北河内11.36、大阪市北部11.08、中河内10.79、南河内10.33、大阪市南部9.12であった。11ブロックすべてで、警報レベル開始の目安5を超えた。

感染性胃腸炎は6%減の699例で、北河内5.27、南河内4.87、中河内4.84である。

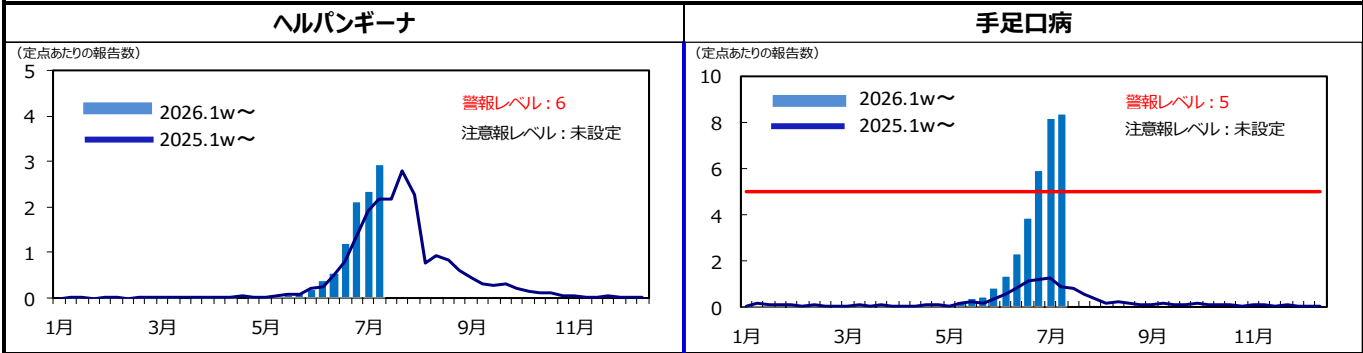
ヘルパンギーナは25%増の535例で、大阪市北部6.54、泉州4.55、中河内3.79であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は26%減の233例で、北河内3.05、中河内2.05、南河内1.67である。

RSウイルス感染症は8%増の98例で、泉州1.05、堺市0.94、大阪市北部0.85であった。

新型コロナウイルス感染症は34%増の516例で、定点あたり報告数は1.81である。南河内3.78、北河内3.08、中河内2.14、堺市1.88、大阪市北部・泉州で1.55であった。

急性呼吸器感染症（ARI）は4%減の10,646例で、定点あたり報告数は37.35である。南河内51.83、北河内48.47、大阪市北部46.50、中河内40.79、泉州39.82であった。



※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意レベルの数値は参考値

表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2026年 第29週7月13日～7月19日）

第29週 の順位	第28週 の順位	感染症	2026年 第29週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2025年 第29週の 定点あたり 報告数	2026年第29週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	手足口病	8.41	2%増	0.89	1歳_41%
2	2	感染性胃腸炎	3.86	6%減	4.53	1歳_16%
3	3	ヘルパンギーナ	2.96	25%増	2.16	1歳_31%
4	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.29	26%減	1.68	5歳_15%
5	5	RSウイルス感染症	0.54	8%増	0.58	1歳_45%
参考		新型コロナウイルス感染症 （急性呼吸器感染症定点報告疾患）	1.81	34%増	2.47	5-9歳_30%
参考		急性呼吸器感染症 （急性呼吸器感染症定点報告疾患）	37.35	4%減	38.23	1-4歳_47%

各疾患の詳細は、大阪府感染症情報センターホームページ（定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報）をご覧ください。

第29週のコメント

～梅毒～ 大阪府における2025年の梅毒累計報告数は1,712例であった



表 2. 大阪府全数報告数（2026年 第29週7月13日～7月19日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
(報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患 をご覧ください。)

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2			1		1				86
4 類感染症	レジオネラ症	6			1	2	2			1	92
5 類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1			1						56
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1								1	7
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1				1					30
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	1						2	1	156
	梅毒	15	2	1	1	4			1	6	714
	百日咳	2		1						1	186
結核 (2026年5月分)	結核 新登録患者数：44名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 12名) (府内累積報告数 337名、内 肺・喀痰塗抹陽性 106名)										

(2026年7月21日 集計分)